
太陽のひだまり

坂本 グミ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

太陽のひだまり

【NZコード】

N2322D

【作者名】

坂本 グミ

【あらすじ】

この、物語は、野球部のマネージャー愛が、いつも、部活をさぼつてばかりいる、本山太陽のことがちょっとだけ、きになります。でも、親友の由佳が太陽のことがすきなのです。どうするの？愛？究極の恋愛ストーリー

1話 太陽の光

私は、こんなに、悲しい思い出はなかった。

そのときの話をしようと思います。

それは、1年前のこと。

私の名前は、愛。

中学2年生。

野球部のマネージャー

私は、友達の、由佳と、マネをやつている。

一人、由佳と、いつも、部活の時間になると話に出てくるやつがいる

それは、いつも部活をさぼって、監督からも目をつけられてる、いつも、由佳の口から、太陽の話がでてくる。

本山 太陽だ。

私は、由佳に聞いた。

なんだろう?

「由佳? なんで、いつも部活になると、太陽の話がでてくるの?」

「私は、聞いた。すると、由佳は、・・・。」

「愛には関係ないっ!」

といつて、向こうに行ってしまった。

もしかしての、もしかして?

あの可能性が考えられる。

何の可能性だつて?

恋愛だよ。

もしかしたら、由佳は太陽に恋したのかも、しれない。

まーどうでもいいやつ。

でも、由佳の恋は応援しなきや!..

私は、もう一度、由佳に聞いた。

「さつきから、『めん。

太陽のこと、好きでしょ?」

私は、言った。

すると、由佳は、顔を真っ赤にしていった。

「わるい？」

といった。

私は、

「んん。由佳の恋を応援したいと思つて

聞いただけっ。」

といったら、由佳は、

「それならいいけど、だれにも言わないでね、」

といつて、部活の方に戻つていった。別にいいのに、好きな人

ぐらいい、。

まつ。私は、いないからいいけど。

「太陽っ！」

グラウンドのはじのほうから、女の声がした。

私は、

「今部活中です。部外者は入らないでください。」

と、厳しくその女に向かつていった。

そしたら、、、、。その女が、、。

「うちさあ、太陽の彼女でえ、。

部活姿みにきただけなのにい、。

いたんだ！あの本山 太陽に？

私は、その女に向かつて、、。

「本当に、太陽の彼女なの？」

つて聞いた。

その女は、。

「ん？今日告つたあから、

返事待ち！」

それつて、彼女つていうんかい！

私は、その女をひきかえし、

太陽にそのことを話そつとして太陽を呼んだ。

「本山 太陽！」

私は、太陽の名前を叫んだ。

そしたら、太陽が

「なんですか？マネージャー」

といつて、こつちに走ってきた。

私は、太陽のことをあまり知らない。

知つていることは、私より、いつこした。

中学1年生。

「本山。さつき、君に告白した女の子がきてたよ」

と、いやみな顔で言つた。

すると、太陽は、ヽヽ。

「ほつといでいいですよーあの女カワいくもないしヽヽ。

だつたら、由佳マネージャーのほうがましですよ。」

といつて、部活に戻つていつた。

まつて、今、太陽の口から、由佳の名前が、ヽ。

これは、由佳におしえなきやーーー

私は、この情報をはやく伝えたい気持ちを持つて、

由佳の場所へ行つた。

「由佳！ すんごい情報！」

といつて、由佳に話しかけた。

由佳は、

「なにに？なんの情報？」

といつてきたので、私は、

ひそひそ話で

「太陽のこと、」。

といつた。

由佳は、

「あー? おしゃべりしてー。」

といったので、おしえてあげた。

「あのね、太陽の口から、由佳の名前がでたの！」

と言つたら、由佳は

「ちょー、うれしー！……愛ありがとうございます。」

といつて、幸せ気分で部活に戻った。

もひつすべ、おわりの時間かあ。

由佳のために、多雨用に、プロフイーかいてもらお

「本山君～」

私は、もう一度、彼の名前を呼んだ。

「またつか？^愛マネージャー」

と、ため息をついて、きた。

私は

「プロフイール書いて！」

明日締め切り。」

と言つて、部活を終わりにした。

帰り由佳が、

「今日、幸せだつたあ～。
と言つていた。

でもね、太陽に告白した女が部活のといひにきたことを由佳に話したら、

「うそお～。太陽はあたしがとる」

と言つて、それぞれの家へ帰つた。

家に帰つたら、由佳とメールのやり取りをした。
私は

「なんで、太陽のこと好きになつたの？」

とつづいて、由佳にメールした。

由佳は、。

「ん？なんか、部活でみてて、汗ながしてゐるの見て？」

かつこいい」と思つて。

でも、年下なんだよねえ。

と打つてきた。

私は、

「そーなんだあー

あたし、由佳のこと、応援してゐよつ

と言つて、メールのやり取りを終わりにした。

でも、、、、、。

あんなやつのビコがいいんだか、。

噂によると、バレンタイン

ほととぎの女子から、チョコもらつたとか。、、、、。

すげー。

そんな相手に、由佳は勝てるの？

そりゃあ、由佳は、カワイイよ。

でも、、、。そんなバレンタインのチョコを

ほととぎの、女子にむづりのような相手に勝てるの？

私は、心配した。

もし、由佳の恋がかなわなかつたら、、、。

私は、そんなことをおもいながら、ねた。

次の日～

私は、太陽のことを、考えながら、

部活に向かつた。

1話「太陽の光」（後書き）

どうでしたか？

更新おそくなると思いますが、よろしくお願いします！

2話「太陽のプロフィール」（前書き）

主人公の、愛は、部活で太陽という男の子を知ります。

親友の由佳は、いつのまにか

太陽のことが好きになつてたみたい。

私は、すきではないから

応援します。

でも？事件発覚します！

緊迫の第2話！

2話「太陽のプロフィール」

私は、心配なきもちにつつまれ、部活にむかった。

ん？

私は、変な光景を目にした。

なぜか、野球部のグラウンドに入る

よこのモンに、1年せいたちが、、、、。

しかも女子だらけ、、、、。

もしかして、、。

私は、いそいで、中に入った

やつぱり、、。

私の予想は的中した。

本山 太陽 めあてだ、。
まつて、、、。

由佳は？

ちょっと、心配だ、、、、。

「由佳！」

私は、叫んだ。

「由佳！大丈夫？」

由佳は、1年生たちにふまれ、ボロボロになっていた。
足なんか、もうキズだらけ。
そしたら、太陽が、

「僕のせいだ。由佳マネージャー大丈夫ですか？」

と、太陽が面倒をみてくれた。

由佳は、万年の笑みをうかべている。

私は、そっとしておいた。
そしたら、太陽が走ってきた

「あの、、。愛マネージャー。僕のこと、

本山じゃなくて、太陽でいいですから。

あと、これ、」

と、なにかをわたし、かえつていった。

これは、、。昨日渡したのプロフィールだ、、。

覚えててくれたんだ、。

私は、由佳に太陽のプロフィーを見せた。

由佳は、。

「あー！太陽君って好きな人いるんだあ～」
と、言つていた。

私は、

「もしかしたら、由佳かもよ、？」
と、言つたら、由佳は、。
「その可能性があればいいけど、」

と、言つた、。

私は

「告白してみたら！」

と、由佳に言つた。

由佳は

「うん。今日の、部活にする。」

と、言つて、保健室に行つた。

するんかい！！

うちも、好きな人ぐらしつくろうかなあ～。

つまんないね。

好きな人いないと。

太陽のプロフィーみてみよつと。
好きな食べ物、、、、りんご」。

好きなタイプ、、、、優しい人。

だつてさあ。

優しい人かあ。

たしかに、由佳優しいモンね。

これだつたら、あたしが太陽と由佳両思いにさせてやるつ。
私は、太陽をよんだ。

「太陽君」。

と、言つたら、太陽がきた。

「なんですか？愛マネージャー」

と、聞いたので、私は、

「あのや、、。由佳のこと好き？」

と聞いたら、太陽は、

「ん？まあまあですえね。」

と、言ったので、私は、きいた。

「じゃあ、だれが好きなの？」

と。

太陽は、

「秘密です。」

と言つて、部活の方へ言つた。
ん~。太陽の好きな人かあ~。

なんか、調べる部とかないのかなあ~。

なんか、「恋愛リサーチ部」

みたいな。

あつたら、由佳のために、調べてあげたいな。

私は、生徒会に、言つてみた。

私は、生徒会長の、舞と、友達だから。

「舞~。ちょっと、質問があつってきたんだけどお~。」

と、いつたら、舞が出てきた。

「どうしたの？愛。」

舞がきいてきたから、こんな部がないかと、質問をした

「あのさ、好きな人を調査してくれる部つてないの？」

と、舞にきいたら、

「ん？ あるよ」

といった。

あるんかい！

私は、その部室に行つた。

トントン

私は、部室の戸をたたいた。

なんか、すごい不気味なの。

しばらくしてから、女ん人が出てきた。

「ようこそー好きな人調査隊へ！」

と、カワイイ女の人が出てきた。

私は、部室の中へ入つた。

「だれの好きな人を調査しましようかあ～。」

と、聞かれたので、私は、

「本山 太陽。」

と、答えた。部員の女は、

「理由をおいたえください」

答えていた頃かなれば、調査はしませんつ。」

と、部員の女が言つたので、私は、
「友達が、本山 太陽のことが好きで、、。

調べてあげたいなと思いまして。」

といつたら、部員の女が、

「あなたが、好きなわけじゃないんですね？」

と、聞かれたので私は、

「はい。そんな確立ありません。」

と言つて、調査をしてもらつた。

すると、奥のほうから、一台のパソコンが出てきた。
なんだかう～？と思ひながら、私は、部員の女に質問した。

「私のパソコンは？」

と聞いたら部員の女は、

「これに、全校の好きな人がのってる、スーパーパソコンです。」

と、言ったので、早速調べてもらひた。

と、とつぜん部員の女が、

「ただでやるわけには、いかないので、」。

「いまのところ、お財布をもつてては？」

ちなみに、料金は、200円です。」

と、言ひたので、私は、お財布から、200円をとつてきました。

「はい、これで、調査してくれるんでしょ？」

と、言つたら、

「はい。責任をもつて、調査します。

1時間ほど、お待ちくださいませ。」

といつたので、私は、部室を見せてもらひた。

部室のドアが、古いだけで、

中は、ピンクの雑貨などがおこりあつて、

カワイイ。

～1時間後～

太陽の好きな人がでてきた。

「これが、調査した、プリントです。」

由佳だよね。ぜつたい。。。

「ーー?」

私は、ビックリして、そのプリントを投げ捨てた。

だって、そのプリントには、、、、、、。

由佳じやなくて、

あたしの名前が載つてたんだもん。

私は部員の女に聞いた。

「IJの調査間違つてますよね?」

と、聞いたら、

「私の調査にまちがいはありません。」

と言つて、部室を、おひだされた。
太陽の好きな人つて、。

あたしだつたの？

これを由佳が知つたら、。

やばいつ。

でも、由佳、今日会話するつて、。

やばいよ。

私は、緊張感をつのり、放課後の部活に出発した。

2話「太陽のプロフィール」（後書き）

どうでした？

ドキワクな小説をかいていきたいので、
どうぞよろしくお願ひします！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2322d/>

太陽のひだまり

2011年1月19日03時00分発行